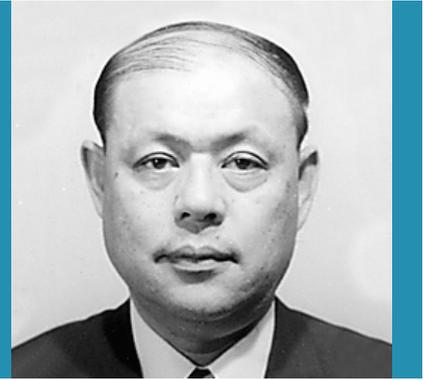


「ロータリーの親睦活動月間」 によせて

1995～96年度 ガバナー
石川和昌



ロータリーは親睦を第一とすと思っていた私にとって、この稿を気軽に引き受けた途端、年度末の6月に今更なぜ 親睦活動を強調する月間がR I 理事会によって6月に指定されたのかと言う疑問が浮かびました。

私のG時代には親睦を強調する月間は無かったと思い手続要覧を繰ってみましたら2007年版にR I 理事会は「6月を共通の職業的関心やレクリエーションへの関心を持つロータリアン同士の国際親睦と親善の重要性を認識し、親睦活動への参加の増加及びこのプログラムに対する理解を促進する為、親睦活動月間として指定した」とありました。6月は例年国際大会が開かれ、全世界のロータリアンが一堂に会する唯一の機会なので国際親善と親睦を深める絶好の機会と言う訳です。更に2016年版では戦略計画の一環として五つ中核的価値観が定められ、その冒頭に掲げられているのが親睦です。

国際大会の会場へ行ってみますと多彩な趣味同好会のコーナーが設置されていますし、友愛の広場では民族衣装を着たりして友情を深めている光景を目にします。

唯、我々日本人グループは開会式に出席して翌日から観光に向うパターンが殆ど様に見受けられます。私もここ数年は高齢の為出ていませんが60年のロータリ生活の内半分以上は出席しみな楽しい思い出故、それでよいのでしょう。クラブ内での趣味の会も又、例会とは別の親睦の機会です。豊橋RCではゴルフ、囲碁、テニス、釣り天狗、家庭菜園、写真の集い・ガーデニア、雪だるま、魚おろし教室等8つ趣味の会があり、中には他クラブと合同の会もあります。それぞれが顔を合わせ、趣味を通じ親睦を図る事、一緒に旅する事を通じ親睦を図る事はロータリーの醍醐味です。

兎角、組織が肥大化し思わぬ方向へ進みがちなロータリーにとって親睦こそ原点であると思う昨今です。